

# 「五月蠅」

あ つじ てつ じ  
阿辻 哲次 京都大学教授

先日のこと、研究室の周りに蠅がたくさん飛び回っていた。どつやら中庭で作られている堆肥たいひの管理が悪かったらしく、陽気に誘われて、蠅が襲来してきたようだ。

蠅が顔や身体の回りをただブンブンと無神経に飛び回るだけでも、ひどくハラがたつ。それで昔の人は「五月蠅」と書いて、「つゝるさこ」と読ませた。言われたらなるほどと思つて読み方である。

だがそれはどうして「五月」なのだろうか。この五月は陰暦だから、今のカレンダーでは六月前後になる。最近の水洗トイレの普及など衛生面の改善が進んだおかげで、昔に比べて蠅がめつきり少なくなつたけれども、それでも全滅したわけではない。そして初夏の頃に飛び回る蠅は、ほとんどつゝるさこいもので、「五月蠅」という宛字あてじは本来にみくできていると実感させられる。

「五月蠅」は難読語ばかりを集めた本には必ず載せられている常連だが、しかし「五月蠅」には「つゝるさこい」のほか「さばえ」という読みがあることは、案外知られていないようだ。

「さばえ」「さつき」「さ」で、五月の意。これに「さ」のよう  
に「さ」という意味の接尾語「なす」をつけた「さばえなす」「は  
騒ぐ」とか「荒ぶる」、あるいは「沸く」にかかる枕詞として使  
われた。今ならさしずめ、大騒ぎする「ールデンウィーク」にかか  
る枕詞とでもいつとらるか。